

第 23 回雪上滑走具関係団体との意見交換会

- I. 日 時 平成 30 年 5 月 25 日 (金) 13 時 30 分より 16 時 30 分
- II. 場 所 東京都「(一財)日本鋼索交通協会」
- III. 出席者 関係団体；(公社)日本プロスキー教師協会:中島会長、同:杉山常務理事、日本スノーボード協会:山田事務局長、同:下留事務局長、日本スノーボード産業振興会: ユングニッケル常務理事、同:河野(株)リバーフィールド社長、同:渡辺(株)リバーフィールド職員、(NPO) ウィンターレジャーリーグ:坂倉事務局長、(株)クレブ:岸野取締役蟹長
- 索道関係；(一財)日本鋼索交通協会:立壁索道営業委員長、同:金澤索道営業副委員長、同:渡邊索道技術安全委員長、同:島村索道技術安全委員会事務局、同:中澤スキー場安全対策副委員長、同:女屋専務理事、同:鈴木企画部長、同:岩代事務局長

IV. 会議概要

(一財)日本鋼索交通協会(以下「日鋼協」という。)事務局の開会、出席団体の紹介、配付資料の確認の後、本会の座長に日鋼協の立壁索道営業委員長を指名し、以下の議題について行った。

1. 平成 29 年度シーズンに発生した事故トラブルについて

(1) ゲレンデ関連

日鋼協事務局より、2017～2018 冬季シーズンにおいて、事業者から報告のあったゲレンデで発生した事故・トラブルと、バックカントリー・山スキーで遭難した事象についての報告があり、意見交換を行った。今シーズンは、アジア系外国人の関係する事故の発生があり、今後の調査においては、死傷者の国名まで判ると対策の参考になるなどの意見があった。

(2) 索道関連

日鋼協索道技術安全委員会より、平成 29 年度に発生した索道運転事故より 9 件の事象報告があり、意見交換を行った。搬器から落下した事象はすべて小学生以下の子供であり、搬器にセフティーバーが付いている場合で子供が多い時は、セフティーバーを係員が上げ下げすることを徹底したら防げないかとの意見が出されていた。

2. スキー場事業者から関係団体への要望事項

日鋼協でスキー場事業者(索道事業者)より収集した雪上滑走具関係団体への要望事項の報告があった。

(1) 滑走具製造販売関係団体への要望事項

要望が 2 件あり、1 件はスノーボードへのブレーキストッパー標準装備のこと、もう 1 件は外国人向けのスキー・スノーボードの装着方法のポスター・パンフレット作成のことであった。ブレーキストッパー標準装備については、日鋼協で「スノーボードを流した」件数調査の結果も報告され、滑走具製造販売関係からは、長年の案件となっていたブレーキストッパーのシステムのサンプルが 3 月に完成し、今シーズン終盤にテストを行っており、さらに次シーズンでもテストを重ね、その結果から量産化を図りたいとの報告もあった。

(2) ウェア・携行品製造販売関係団体への要望事項

要望が 3 件あり、1 件はボーダーのズボン等の腰部付近の紐・ホルダー等の改善のこと、2 件はウェアのポケットやチケットホルダーに関する改善のことであった。

(3) 指導者関係への要望事項

要望は無かった。

(4) その他の要望事項

要望が2件あり、1件は滑走禁止区域（コース外滑走）の危険性を伝えること、もう1件は冬のレジャーでの余暇の楽しみ方や冬季スポーツによる体力増強・ストレス解消・健康維持に関することであった。

3. 関係団体からスキー場事業者への報告と要望

各関係団体よりスキー場事業者（索道事業者）への要望や報告があった。

(1) (公社)日本プロスキー教師協会

傘下のスクールから収集した事故トラブルや要望事項についての報告があった。その中で、リーシュコード未装着でスノーボードを流したことの報告があり、外国ではリーシュコードの認識が無いと思われること、外国人のインストラクター養成のために自国語だけでスクールの資格を取れるように検討していること、中国や台湾などの外国人は滑りに出ないことからその方策が必要であり、また初級者はスクールに入るものとの風潮を作りマナーなどを教えて事故防止に努めることをスキー場とスクールの協力で考えてゆきたいとの報告もあった。

(2) 日本スノーボード協会

オリンピックの影響もありキッズの参加が増えてきた。キッズのリフト乗車についても持ち帰って会議で徹底する。スキー場の経営方針に則って実施しているのが現状である。ボードの流れについても、これだけの数字があることが理解できましたので、今後は何か会議がある時に周知していきたい。高速道路では事故事例をSAのトイレ等に貼って周知している。今後チラシ等を作った時には、そのような形でも協力をお願いしたい。冊子については毎年1回つくっているので参考にしていきたい。事務所を豊島区に引っ越した。

(3) 日本スノーボード産業振興会

雪と楽しむためのアイテムを、スキー場とタイアップして広めたい。また、次シーズンに合わせて「スノードライブ」というギアが出る予定であり、その後もいろいろなギアが出てくると思われる。

なお、日鋼協より、スキーブーツの底が滑走面となっている品物が今シーズン中に見られているとの質問があり、これは「スノードック」という品物で、韓国で製造されており、日本国内に取扱う代理店が無いためギアとして扱っていないが、日本での流行は難しいかもしれないとの返答があった。

(4) 株クラブ

先ほどのスノーボードのストッパー開発を進めていきたい。また、スキーやスノーボード以外のギアなどで遊ぶ所として、長野県の焼額山スキー場と新潟県の苗場スキー場に「スノーチャレランド」を開設している。今後は、このような場所を活用して、初心者に来てもらい、移動手段にエスカレータを使って基本を覚えてもらい、それからゲレンデに出掛けることを提案したい。滑ることを重視しないアジア系の外国人の対応もできるのではないかと思われる。

(5) (NPO)ウインターレジャーリーグ

日本人の来場者が伸びておらず、外国人の来場に頼っているような状況となっている。今後は外国人の対応が重要となるかもしれない。

(6) 日本スキー産業振興協会

本日は欠席であるが、ヘルメットの着用率を高める動きについて、「スキーブーツ」と「ビンディング」の規格による組み合わせの多様化についての2項目の報告資料の提出があった。その中で、ヘルメットの着用については、パトロールやスクールのインストラクターが着用していないことが見られるとの発言があり、率先して着用することでヘルメットの着用率が上がるのではないかとの意見があった。

4. 平成29年度シーズンの情報意見交換

(1) 「スキーの日」記念イベントについて

2018年のスキーの日（1月12日）における各地の催事についての報告が日鋼協よりあった。また、この他にも「スキーこどもの日」を設けている等のイベントが行われていることも報告された。

(2) 全国スキー安全対策協議会

日鋼協より、スノースポーツ安全基準およびコンメンタールの活用と、平成30年2月に実施されたスキー場傷害調査の集計結果の報告があり、スノースポーツ安全基準については、ホームページのトップに項目を掲載してルールをPRしていること、スキー場傷害調査の集計結果からは、裁判事例は少なくなっているが、けが人は減っておらず、滑走者のルールの認識に要因があるのではないかとの発言があった。また、ゲレンデ等での事故の裁判で、裁判官がスキーやスノーボードをしなかったり、知らなかったりするために、自動車事故と同じような感覚で処理されることもあるとの発言もあった。ホームページには英訳版も掲載しているので活用していただきたい。

5. その他

(1) 次回の開催予定について

定期的な意見交換が有効であることから、第24回を来年5月下旬に開催することとした。

(2) その他

バックカントリーへの対応として、北陸信越山岳観光索道協会日本語版と英語版のパンフレットを作成し、全国スキー安全対策協議会名で対応を拡大したことの報告があった。関係団体からは、用品店等へ配付して徹底を図ってはどうかとの発言もあった。

以上